

視察研修報告書 市民ネットワーク北海道

期 間	令和2年3月27日 9:00~12:00 (前日から移動)			
<視察者> 鶴谷 聰美				
調査地選定理由				
<p>上川郡下川町 NPO法人しもかわ観光協会</p> <p>調査内容：木質バイオマス施設見学と持続可能な地域社会について</p> <p>【選定理由】バイオマス産業都市およびSDGs未来都市に選定されている下川町の、循環型再生エネルギーのあり方について調査研究のため</p>				
NPO法人しもかわ観光協会	報告者	鶴谷聰美		
<p>3月27日(金) 9:00~10:00 まちおこしセンター コモレビ内／下川町共栄町 ○持続可能な地域社会の実現に向けて ～人と自然を未来へつなぐ「しもかわチャレンジ」～</p> <p>説明者／下川町バイオマス産業戦略室 室長 山本敏夫</p> <p>明治34年の開拓団入植から60年間で約15,000人へと人口が増加、木材や鉱物資源の生産地として発展したものの、鉱業衰退や国鉄廃線等30年間で10,000人の人口急減期をたどってきた。平成26年から循環型森林経営をスタートした下川町は、木質バイオマス施設と公的施設や住居での熱源活用でエネルギー循環をはじめとする取り組みは、全国で知られるまでになっている。</p> <p>注目したいのがエネルギー源となる森林資源は、町内や道北圏域の森林資源を余すことなく活用している点で、原料製材から家具、アロマオイルまで多岐に渡り、商品化できない部分を木質バイオマス施設の原料チップに使っている。</p> <p>平成16年の初のバイオマスボイラを温泉施設で稼働し、幼稚センター、高齢者複合施設、町営住宅、小中学校へと広がり、現在は公共施設の熱供給68%を再生エネルギーへ転換され、町財政においての光熱費削減額は1900万円／年。削減分は基金とし、子育て支援（医消費負担減）と各施設のボイラ等更新費用に充てているという。また、木質原料製造施設の運営は、平成21年から、灯油・ガスの販売業者で構成している下川エネルギー供給協同組合へ業務委託されている。森林除間伐木材のほか、近年は豪雨により倒木河畔林が洪水の要因となったことから、町周辺及び道北一帯の河畔林が伐採整備され、その木々が搬入されているとのこと。</p> <p>超高齢化対応社会モデル集落の構築として、中心市外地から約12キロ離れた一の橋地区で「一の橋地区バイオビレッジ構想」が展開されている。超高齢化問題と低炭素生活をめざし、環境課題と集住化による自律型コミュニティモデルを想</p>				

像し住まいと生活の集積に向け、地域おこし協力隊の受け入れから定住につながる実績もある。平成 21 年の同地区人口 95 人のうち 14 歳以下 2.1%、15~64 歳 46.3% が、7 年後に 75 人へと減少したものの、14 歳以下 9.2%、15~64 歳 63.2% と高齢化率が低下している。

【現地視察】 案内／N P O 法人しもかわ観光協会 事務局長 高松峰成

10：00

○下川町木質原料製造施設 ／下川町南町

伐採して持ち込まれた原料木材は、広い敷地内で野ざらしで天日乾燥し、乾燥機は一切使用していない。専用の加工用機械でチップ化された燃料チップは、2 トンダンプトラックで町内各施設のボイラへ運搬されている。

10：30

○一の橋地区バイオビレッジ ／下川町一の橋地区

町営住宅や郵便局、地域食堂などコミュニティ機能も集積されたエリアを案内していただいた。回遊路でつながる町営住宅に、郵便局や警察官立ち寄り所を含む住民センターがある地域食堂「カフェいちのはし」は、高齢者の見守りや移動販売事業も担っており、中心市街地からはかなり山あいの地区だがコミュニティ機能が維持されている。住民の生活費に占める光熱費負担額は、通常の電気、ガス、灯油等の場合とほぼ同じとのこと。

また、この地域一帯の施設の給湯・暖房を排出しているバイオマスボイラ施設を見学。施設は、点検作業やチップ投入以外は無人で稼働している。近くには、木質バイオマスエネルギーから熱源をひいた特用林産物栽培研究施設（ビニールハウス）があり、しいたけが菌床栽培されている。町内、近隣市、道北エリアのスーパーで通年販売されている。

【感想・考察】 「木質バイオマス施設」の建設と聞くと、再生エネルギーの視点でよいイメージがあるが、原料調達、加工する施設や敷地、雇用、地域住民の暮らし等、エネルギーが地域内で循環することの理解が深まり、持続するしくみであることの重要性を再認識する機会となった。そして、循環のしくみを持続するためには、エネルギーを使う環境活動への住民理解と、次世代への環境教育もセットでなければならないと感じた。持続するエネルギー循環を考えると、無駄な乱開発はできないことに必然的に気づく。下川町では、未就学児から高校生がそうしたことを学べるカリキュラムが確保されていることを聞いたことがあり、次の

機会に調査したい。

【追記】NPO法人しまかわ観光協会は、下川町の視察・研修の受け入れ対応（料金あり）を担っており、視察用のサイト運営、問合せへの対応、行政担当者の手配調整も行っている。受入実績の多くは議会や自治体とのことだが、オプションメニューも用意し、多様な希望に対応しているとのこと。単に、まちのオススメスポットを紹介するだけの観光協会ではなく、町のあらゆる取り組みについて、概要や事業説明をする体制を備え、必要に応じ行政担当者との連携調整、ガイドツアーアイベントの企画まで、市民協働型で効率的・効果的に運営している。

